

令和元年度第 3 回 (1/21) 習志野市長期計画審議会資料

令和 2 年 1 月 2 1 日

習志野市長 宮本 泰介 様

習志野市長期計画審議会
会 長 広田 直行

習志野市後期基本計画（案）について（答申）

令和元年 8 月 5 日付け総政第 5 0 号で諮問のありましたこのことについて、
下記のとおり答申します。

記

習志野市後期基本計画（案）について、本審議会において慎重な審議を重ねた結果、その内容は概ね妥当なものであると判断しますが、以下の意見に十分留意していただきたい。

1. 計画全般に係る意見

(1) 実施計画等との関連性について

実際の進捗管理を主とする実施計画及び個別計画の策定・取り組みにあたっては、基本計画に沿った事業を展開し、新規事業の着手を含め、着実な実施に努めていただきたい。

(2) 習志野市の魅力発信について

様々な取り組み、事業など、習志野市の魅力をどのように発信していくかについて、しっかりと検討していただきたい。このことが、本計画を実現させるためには、必要不可欠であると思料します。

土地が狭く、いろいろなモノが揃っている習志野市は、高齢化や定住に対応できる「コンパクトシティ」として成功例になるのでは、と感じています。

交通の利便性は、通勤だけでなく、高齢化においては運転免許を手放しても大丈夫という先々の安心感を、少子化においては進学先の選択肢を幅広く考えられることにつながり、生産年齢人口の定住につながると

考えます。

また、既に習志野市にあるもの、水道水の美味しさ、食べもの、教育といったものがあれば、定住は図れると思います。

無理に「新しくつくる」のではなく、「今、習志野にあるもの」に、市民が目を向け、認識することによって、市民自身が発信者となり、習志野のPRができると思います。

(3) 公共サービスとして行うべき事業の精査について

取り組み、主な事業については、公共サービスとして行うべきかを精査していただきたい。民間のノウハウの活用、受益者負担について検討し、公共サービスで何もかもやる必要はないと思料します。

2. 各施策の今後の展開に係る意見

(1) 健康づくりの充実について

一番多い人口層である45歳に対する健康支援の施策を行うことで、介護費用が減ると思われます。

また、市内の飲食店が塩分を控えたメニューを一緒に作るなど、行政と事業者と一緒に取り組むことで、まちぐるみで健康の推進ができると考えます。これらの取り組みを講じていただきたい。

(2) 地域共生社会の推進について

地域共生社会を推進する中で、高齢者の介護予防の推進など、地域の中で推進する担い手をどう作っていくのかがこれからのポイントになると考えられることから、しっかりと推進していただきたい。

また、高齢化社会において、高齢者が地域にどのように貢献していくのか、どのように活躍していくのかということにおいても、地域共生社会の推進という視点は、非常に重要であると思料します。検討を更に掘り下げて、施策において実行していただきたい。

そのような中、市の表彰制度のあり方を見直し、交通安全やPTA活動など、地域で活躍し、頑張っている市民を表彰するという制度も今後重要であると思料します。

(3) 就労支援、キャリア教育の実施、ショートタイムワーク制度の導入推奨について

65歳までの雇用延長方針と年金受給機会の後ろ倒しなどの社会環境の変化に対応した市内での雇用機会の創出について、ハローワー

ク等と連動して取り組んでいただきたい。

また、定年退職後の就労支援を行うとともに、退職後からのキャリア検討では遅すぎることから、50代を対象にしたキャリアセミナーを実施するなど、早期の段階から定年後のキャリア形成ができる機会の提供にも取り組んでいただきたい。

なお、企業においても、障がい者雇用の数値目標が設定されている状況において、行政としても市内各企業への就労支援について、数値目標の設定とともに、簡易な業務を行う「ショートタイムワーク」の活用などで、機会と可能性を広げる検討も考えていただきたい。

また、支援多様なワークライフバランスを実現するため、育児休業中においても在宅で短時間ワークができる取り組みを行政として推奨し、導入する企業の拡大と斡旋を行っていただきたい。このことにより、住民の多様な働くニーズに応えることができると思料します。

さらに、就労希望者、学生などへのキャリア形成を企図したコンサルティングを関係機関と連携して行うことで、就労に向けた機会と意欲の拡大を図っていただきたい。

(4) 商店街後継者の育成支援について

商店街の店舗の閉店・閉鎖が多くみられるようになってきています。続けたいと思ってもらえるような社会環境、労働環境の整備、後継者の育成に関する取り組みを講じていただきたい。

(5) 音楽のまち、スポーツのまちとしての訴求について

小中高と音楽活動の活発な市の特長を活かしたプロモーションができないでしょうか。内外から参加者・観覧者を集めて、街を音楽一色にするような、市のブランドメッセージを体現するイベントを実施することにより、市のイメージを確立することを検討していただきたい。

また、オービックシーガルズ、習志野高校など、スポーツのまちとしてのイメージも強く、秋津運動公園のように交通の便のよい施設もあります。これらを活かした市の訴求をさらに強化していただきたい。

(6) 防災対応について

防災情報などはメールで配信を行っているが、高齢者への伝達がどこまでできているか懸念されます。各町会等と連動して高齢者の携帯電話への防災メールの登録サポートを実施し、伝達体制の強化を実施

していただきたい。

また、国民保護施策においても同様に取り組んでいただきたい。

(7) 道路修繕箇所の早期発見について

千葉市で実施しているスマートフォンを活用した破損個所の通報する仕組みを調査・研究の上、習志野市でも導入し、情報の伝達スピードを向上させていただきたい。

(8) シェアサイクルの導入による近隣市との連動化について

個別計画に基づき、早期に自転車通行環境を整備し、シェアサイクル制度の導入とポート設置拡大を促進させ、市内の移動の利便性向上を図っていただきたい。

既に千葉市では導入していることから、近隣市も含めて共通利用を可能とすることで、活用範囲の拡大を企図できると思料します。

(9) 地球温暖化対策の推進について

地球温暖化対策については、住民・企業参加型の取り組みを強化し、市全体で施策を推進していただきたい。

(10) 公共施設再生に係る交通インフラの重点整備、図書館機能停止に伴う代替案について

公共施設統合によって、施設を集約していく方向性にありますが、統合される地域の住民、特に高齢者と子育て世代の利便性の低下が懸念されます。高齢者の運転問題や環境問題、交通事故の抑止の観点から、公共施設への移動手段の確保（オンデマンドバス、タクシー利用券やバス路線の再編）など、行きやすい環境を整備していただきたい。

また、藤崎図書館の機能停止については、本の貸出・返却等の利便性の低下が懸念される所であり、遠隔の貸出・返却機能を維持していただきたい。

(11) 財政健全化に係る業務効率化に向けたRPAの導入について

RPAの導入により、単純業務・定例業務については、大幅に業務効率の向上とコストの削減が期待できることから、是非とも、早期の導入を実施していただきたい。

なお、これに伴う作業時間の削減とコストの削減効果を市民に公表していただきたい。